

第 269 回番組審議会 議事録

開催日 2023 年 6 月 13 日 (火)

出席者：湯川れい子委員長、亀渕昭信委員、安藤美冬委員、長崎亘宏委員

欠席者：角田陽一郎委員 (※審議レポート提出あり)

1、議題 (審議番組)：里山 ZERO BASE コラボレーションラジオ「Sato Note」

放送日時 : 2023年4月9日 (日) 8:00 - 8:30

DJs : 西野文貴、高橋万里恵

会社からの説明

林学博士、西野文貴さんが展開する、千葉県君津市や大分県国東市で始まった荒れた人口林の里山再生プロジェクト「里山ZERO BASE」と連動したラジオ番組で、「里山の再生を通じて、森林・植物の魅力をもっと近くに」をコンセプトに2023年4月にスタート。番組では千葉県君津市の里山の再生を通じて森林や植物の魅力を再発見すること、また、2024年度に始まる「森林環境税」に代表されるように、国による森林の活性化を見据え、地方自治体や企業との連携・提携することを視野に入れ編成しています。

委員からの意見・感想

審議委員A

里山の世界観と日曜日の朝の放送であることがラジオという媒体とマッチしていて、心地よさを感じた。この番組の前に放送されている山小屋の経営者やスタッフなどにお話を伺う「山小屋ストーリーズ」という番組と連続しているという流れに可能性を感じている。出演者の西野文貴さんと高橋万里恵さんの声もよく、コンビネーションが素晴らしい。西野さんという存在は掘り出し物というか、逸材ではないか。選曲についても番組のコンセプトや放送日時に配慮や工夫を感じた。審議対象の放送回は間伐の様子であったが、リスナーの興味、関心の延長の受け皿として番組ホームページや SNS を活用し、画像や映像を見られるようにしてほしい。林学博士、西野さんによる説明や解説といった、いわゆる“お勉強”の要素だけではなく、別の切り口からの楽しさも期待している。

審議委員B

とても楽しく聴くことができた。こうした内容の番組は好みだ。出演者の西野文貴さんの話し方や説明が分かりやすく、「里山 ZERO BASE」への想いが伝わってきた。もうひとりの出演者で森林セラピストの資格を持つ高橋万里恵さんとのやり取りも軽妙で清涼感があった。当初は映像

があった方が良いなと思っていたが、聴き終わった頃には考え方は変わっていて、ラジオならではの想像力をかき立てるラジオならではの良さを感じた。森林の息遣いや生物の多様性などを感じ取ることができた。公開収録があれば参加したい。

審議委員C

楽しく聴くことができた。出演者の二人が楽しそうで、里山の中の清涼とした感じが番組に溢れていて、実際に里山に行きたくなった。出演者が楽しそうなのが番組にとって一番の魅力なんだと改めて認識した。一方で私はテレビの世界が長かったため、どんな状況なのか映像を観たくなかった。里山での収録の様や植物の解説などは、画像や動画でも見られると良いと感じた。今後の展開として、リスナー参加型の夏合宿といったイベントもできれば楽しいのではないかな。

審議委員D

わたしも植物学者・牧野富太郎さんをモデルにしたテレビドラマを視聴しているが、出演者の林学博士、西野文貴さんは牧野さんのようで素晴らしい。今まで番組審議会でたくさんの番組を聴かせていただいたが、三本の指に入るのではないかな。30分番組ではもったいない。間伐のため樹皮を剥いだときの樹木の瑞々しさ、藤の花は美味しく食べられることなど、たくさんの面白い学びがあった。里山をつくるというコンセプトも素晴らしく、映像のない音声メディアでもそれが成立することが分かった。

審議委員E

楽しく聴くことができた。今、日本の植物学者・牧野富太郎さんをモデルにしたテレビドラマが放送されているが、いいタイミングなのかもしれない。番組は実際の里山で収録していると伺っているが、出演者の西野さんと高橋さんのおしゃべりが心地よく聴くことができた一方で、里山を歩く足音や風の音、鳥のさえずりといった自然の音がそれほど感じられなかった。そこでしか聴けない音があるはず。そこを意識すると、より際立った内容になるかもしれない。

—会社側の回答

番組に対する評価、改善・要望などの意見を真摯に受け止め、より質の高い音楽番組の制作に向け改善を図る。

以上